



2014. 06. 01

会員の活動状況

今年度のサケ稚魚放流は、増殖事業や各地の体験放流共に終盤を迎えました。放された魚が少しでも多く戻って、資源の回復に貢献してほしいものです。今回は、この時期に行なわれた会員の活動の一部を紹介します。

北海道区水産研究所は、千歳サケのふるさと館の一角をお借りして“サイエンスカフェ おさかな北海道 at 千歳サケのふるさと館”を開催しております。この会は、一般の方々を交えて飲み物を片手に気軽に語り合う講演会です。第4回目(5月9日)となる今回は、元さけますセンター所長の野川秀樹氏から“千歳川におけるサケマス人工孵化事業 130年の歴史 ～明治期を中心として～”の演題で、古い手書きの資料を解説した興味深いお話しが紹介されました。

千歳サケのふるさと館では、春のメダカ展(4月26～5月6日)、サケふる春の縁日(5月3日～5月6日)、サーモンフェスティバル(5月5日)等が行なわれました。また、漫画家・絵師の矢口高雄氏に依る“釣りキチ三平生誕40年記念展 ～飛騨天童心～”が開催されました。

標津サーモン科学館では“サーモンパーク春祭り”が開催され、シロザケ稚魚の放流式やミズダコの朝食風景の見学等が行なわれました。また、近いうちに優美(?)な深海魚として知られる「リュウグウノツカイ」の剥製が展示されるようです。一方、華やかなイベントの陰では、定置網で取られたシチロウオの産卵が地味に確認されました。

豊平川さけ科学館でも、5月4日～5日に恒例の“サケ稚魚体験放流”が行なわれました。好天に恵まれ、1日当り約1,000名を超える来場があったようです。また、イベント期間中に、日本ハムファイターズの稲葉選手と金村選手が来訪し、会場を盛り上げてくれました。この体験放流には、北海道サーモン協会も協力しております。

事務局からのお願い

今年度のサケネットワーク会報の発行にあたり、原稿を募集します。内容は、サケネットワークの目的に合った活動報告、あるいは企画の紹介等です。特に今年度のサケ会議では、小・中・高校の自然と関わりのある教育活動を集める予定なので、これに関連する情報は歓迎です。原稿の長さは問いません。

原稿の締め切りは6月末日、本文はワード文書、図はJPEGが理想です。

原稿の送付先は、浦野代表宛(akihisa_urano@s8.dion.ne.jp)にお願いします。また、上記に関する情報を既にホームページ等で紹介されている会員の皆様については、原稿を頂く代わりにその内容を利用して頂くことでも構いません。許可して頂ける方はホームページのアドレスを浦野代表宛にお知らせください。